

平成18年(2006年)4月1日発行



学校法人 日本工業大学創立100周年

2007年の学園創立100周年まで、あと1年余。本学園では、年史の作成や百年記念館の建設など、学内外の方々の協力をいただき、さまざまな記念事業を推進している。左は、無限を表す「メビウスの環」をモチーフとした、100周年記念シンボルマーク。



本大学院では、本年3月25日に無事第1期生の学位記授与式が執り行われた。本大学院は、特に中堅・中小企業における実務経験を有する人材の育成・再教育にターゲットを絞って技術経営(MOT)を学習してもらおうことを建学の理念としている。そのための配慮は種々あるが、中でも1

密度の高い1年で成果を掴み取ろう

専門職大学院だより 「新入生を迎える言葉」
大学院技術経営研究科 研究科長 村川 正夫

本大学院では、本年3月25日に無事第1期生の学位記授与式が執り行われた。本大学院は、特に中堅・中小企業における実務経験を有する人材の育成・再教育にターゲットを絞って技術経営(MOT)を学習してもらおうことを建学の理念としている。そのための配慮は種々あるが、中でも1

年間の集中的、効率的に勉強することで、技術経営修士(専門職)の学位が得られるようにしていることが特筆される。これは皆様のように入念に多忙な社会人に入学を決定してもらったためのキーポイントの1つと考えたためである。

企業におけるキャリアを学んでいただきたいのか。MOTを体系的・総合的に学んでいただきたいのか。何故、入学の皆さんに特にMOTを体系的・総合的に学んでいただきたいのか。

現在日本経済再生に求められているのは、中堅・中小企業が有する優れた技術の活用と、市場に売れる商品として市場に売り出すためのいわゆる「技術経営力」を駆使し、これらユニークな技術の開発を促進させることにある。

大企業は、リスクの大きいユニークな技術開発や、ナンバーワンのシェアを獲得できるニッチ分野の技術開発などが苦手であると思う。このような分野でこそ、技術経営力を発揮して、リスクに立ち向かうチャレンジングな中堅・中小企業経営者の出現が求められるのである。かくして、「技術経営

力」が真に求められるのは、1年間通学することは「言わば易し、行方は難し」かも知れない。これに対しては、第1期生の1年間での密度の高い学習スケジュールは、緊張感を保持するのにかえって都合であった。この言葉を送りたい。どうかこれから1年間悔いなく、次のエクセレント工房を体験し、次にエクセレント工房

2006オープンキャンパス 日程決まる!
7/15(土)・8/19(土)・9/9日(土)
時間:各日とも11時開始
つくる楽しさ、学ぶ喜び、まるごと体験。
内容:施設見学・研究室ツアー・模擬授業・体験学習・入試説明会・学生食堂無料試食会 他

うに、授業形態は、平日は夜の6時30分からの夜間学習、土曜日は午前9時から午後の全日学習としている。カリキュラムについては、皆様の実務に役立つよう中小企業技術経営、プロジェクトマネジメント、技術起業戦略の3コースを設けている。学生は、いずれかのコースに所属してもらうが、コースの縛りはゆるく、中堅・中小企業へのMOTについて体系的・総合的に学習することが可能となっている。

最後に、十分な大きさのメダルが与えられます。プライマリー工房は、ものづくりの基本を、ものづくりに触れ、楽しく体験する場です。これを履修すると、カレッジマイスター・プライマリーの認定証が授与されます。

君の所属する学科によって異なりますが、1年次からエクセレント工房に挑戦することもできますし、まずプライマリー工房を体験し、次にエクセレント工房

日本工業大学だけのユニークな取組です。「7つの工房」によるカレッジマイスターの養成1体験的実工学教育の「タイトル」で、平成17年度・文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(特色G.P.)」に採択されています。

新入生諸君、日本工業大学に入学おめでとう。諸君は、これから、4年間、あるいは大学院へ進み、それ以上にわたるかもしれないが、日本工業大学のキャンパスで日々、多くの仲間、先輩、そして私たち教職員とともに過ごすことになるわけです。このキャンパスを十分に活用して充実した学生生活を送っていただきたいと思えます。日本工業大学は、プロダクツ(工業製品)を生むA to Zがある大学であると、私は

A to Zとは、入門から最先端まで、あるいは立ち上がりからゴールまで、素材の基礎研究から生産システムまで、製造技術の過去から未来まで、と様々な経験することができ、そのいずれもが、ここにあり、各専門分野の研究センターが並び、研究、実習施設が充実しています。私学の理数系学部の中でトップクラスにあるといっているでしょう。

工業技術博物館を覗いてみてほしい。工作機械などは自負しています。A to Zとは、入門から最先端まで、あるいは立ち上がりからゴールまで、素材の基礎研究から生産システムまで、製造技術の過去から未来まで、と様々な経験することができ、そのいずれもが、ここにあり、各専門分野の研究センターが並び、研究、実習施設が充実しています。私学の理数系学部の中でトップクラスにあるといっているでしょう。

250台以上が機種別、製造年代別に展示され、しかも動態保存しています。つまりただ飾ってあるのではなく、現役として使えるというのが自慢なのです。実際、古い機械がコレクションに加わって、その部品が足りなくて動かせない場合などでも、この機械を使って部品を作り、現役として蘇らせているのです。日本の製造業は60年前には壊滅状態にありました。それが世界ナンバー1の品質の工業製品を世界に供給

動かせる場が用意されています。スチューデントラボといえます。工作機械や道具が整っていて、機械の扱い方を親切に教えてくれるアドバイザーもそこにいます。いつでもものづくりに打ち込むことができ、技術的な壁にぶつかったとき、とても頼れる存在となるでしょう。一人でとことん取り組むもよし、仲間と作り上げる喜びを味わうのもよし。入門的な施設として「CAD設計演習室」や、エンジニアの夢を育てる「二足歩行ロボット」の施設もあり、ここで様々な体験をしてください。

また、施設設備だけでなく、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム(特色G.P.)」に採択されたカレッジ・マイスターを養成する「工房」と名づけられた教育プログラムに注目をしてください。ソーラーシステムは、学生が環境マネジメントマニュアルを作成し、環境負荷を下げるための活動に携わり、エコロジカルなキャンパス作りを進めています。2007年には本学は40周年を、付属の東京工業高等学校と中学校を合わせた学園としては100周年を迎え、高度な情報機能と、くつろぎの空間を兼ね備えた図書館が完成します。楽しみにしていただきたいと思えます。

諸君が、こうした施設をフルに活用し、また先生方から技術と理論をどんどん吸収し、他に代えることのできないかけがえない貴重な4年間を、中味を濃く、高密度なものにしていただきたいと願っています。

入学おめでとう。日本工業大学は、意欲的な君のために、特別な教育プログラムを用意しています。本格的なものづくりに挑戦する「工房教育プログラム」です。この中には、エクセレント工房とプライマリー工房があります。エクセレント工房は、長期間かけて、企画から設

「エクセレント工房」機械加工工房 型技術工房 エンジン工房 ロボット創造工房 2×4木造建築工房 航空機復元工房 ネットワーク構築工房

「エクセレント工房」好奇心にあふれた君のチャレンジを待っています。

工務教育推進本部長 黒津高行

工務教育推進本部長 黒津高行

「エクセレント工房」好奇心にあふれた君のチャレンジを待っています。

工務教育推進本部長 黒津高行



学長 柳澤 章



カナダ研修所において茶室建設に取り組み学生たち

カレッジマイスターに挑戦しよう

工務教育推進本部長 黒津高行

入学おめでとう

機械工学科

新入生を迎える言葉

新入生諸君へ

激変にも対応できる能力を

新入生諸君、ご入学おめでとう。今日から、諸君は日本工業大学の一人となりました。これから諸君が過ごすことになる大学生活は、今迄とは大きく異なってきます。諸君に対する呼び方も「生徒」から「学生」に変わります。さらには「生徒」と「学生」は、どの様に異なるのか。山登りを例にとりますと、「生徒」の時には、先生は手取り足取り教えてくれたさつたでしょうが、「学生」になると、先生は登る道筋は示しますが、手取り足取り教えることは致しません。ひとこと言えば、大学は「自ら学ぶ」場であり、受け身で教わる場ではないということです。しかしながら、諸君が大学生活へスムーズに移行できる様、本学では様々な支援体制を整えております。そうした場を活用して、一日も早く大学生活を軌道に乗せていただきたいと思ひます。

ところで、諸君が入学した本学は、1907年(明治40年)、東京・小石川の地に誕生し、来年は創立百周年を迎えるという長い「実学教育」の伝統を有しています。この間、本学園の教育は自ら手を動かして「ものをつくる」ことから学ぶ「体験学習」を重視してきました。本学での教育は、「体験」だけではなく、自ら経験したことについて、後で理論的に学ぶことに特長があります。経験を理論づけることによって、「技術的感性」を養うのです。その為、わが国でも有数の実験装置を有し、十分な施設・設備を備え、また優れた教授陣がおります。

こうした取組みが評価され、昨年は文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に、本学の「7つの工房によるカレッジマイスターの養成―体験的実工学教育―」が採択されました。こうした環境を駆使し分厚い学習歴を磨いていただきたいと思ひます。諸君は、本学で4年間を過ごし、社会に巣だつていくわけですが、その頃の世の中は、多分、予想以上に激変しているものと考えられます。「激変」ということで、最近の例を上げるとすれば「カメラ」でしょう。諸君もご承知の様に、デジタルカメラの出現と急速な普及で、あっという間に技術の主体が変わつてしまいました。こうした変化に対応していくにはどうしたら良いか。それには、学生時代に技術の神髄に触れること、また、自分で考える習慣を養うことが重要です。元を知らなければ、技術の

進んでいく先が読めないで、やはり勉強して基礎知識を蓄えていただきたい。また、モノに触れることと合わせて、技術者としての感性を養っていただきたい。それが、本学が進める実工学教育なのです。こうした教育の延長線上に、本学では、社会人のための専門職大学院を、昨年4月、東京都心の神田に開設いたしました。学園は今、大きく変わろうとしています。諸君が2年生の時に、本学は学園創立百周年を迎えます。次の百年に向かって、生まれ変わろうとする学園での今後の4年間を、充実したものにしてください。諸君の健闘を期待しています。



理事長 大川 陽康

知らなければ、技術の進んでいく先が読めないで、やはり勉強して基礎知識を蓄えていただきたい。また、モノに触れることと合わせて、技術者としての感性を養っていただきたい。それが、本学が進める実工学教育なのです。こうした教育の延長線上に、本学では、社会人のための専門職大学院を、昨年4月、東京都心の神田に開設いたしました。学園は今、大きく変わろうとしています。諸君が2年生の時に、本学は学園創立百周年を迎えます。次の百年に向かって、生まれ変わろうとする学園での今後の4年間を、充実したものにしてください。諸君の健闘を期待しています。

電気電子工学科

建築学科



システム工学科

情報工学科

学生支援部長からのメッセージ

充実した
学生時代を



学生支援部長
鈴木康之

※鈴木教授は平成16年4月から学生部長の職にありましたが、平成18年4月より梅崎栄作教授（機械工学科）に変わります。また学生部の名称も学生支援部と改称します。

新入生諸君、入学おめでとう。諸君の目的は専門の知識と技術を学び、専門技術者となり社会に雄飛することでしょう。

大学は諸君が自ら調べ、思索し、行動して、学び自らを育む場です。それは専門に必要な学問や技術だけでなく、諸君の人生にとって必要なさまざまなことをも学び自らを育むのです。そして諸君は成長し、大学を卒業したことを誇れる大人となり、社会に雄飛することができるのです。

ここで、学生時代が楽しく充実し、人生にとって必要なことを学び自らを育むためにも最も必要なことを一つ挙げておきましょう。学生諸君と日頃から接している者から見ると、学生諸君はお互いに傷つかない

ために、人と人の直接の対話を避けて電話やメールという情報機器を通して、お互いに自己の都合のよい情報での対話、すなわち、心をかき乱されない対話を行ってしまっているようです。

しかし、これではいけない。少々大げさですが、自分自身の総てをさらけ出し合う人と人の直接のふれ合いを誠実にせび行ってください。その相手は、学内では、君の仲間である新入生、先輩、教職員など、君以外の学内全ての人です。

そのチャンスは登校の途中、学内の通路やベンチ、食堂、教室、クラブや同好の集まり、自治会主催の催しなど、や研究室や事務室などどこにでもあります。そのような機会に少し勇気を奮い起こして話し掛けたり、相談したり、一緒に参加したりして君の心を外に向かつて開いてみてください。

日本工業大学学業奨励奨学金

平成十七年度入学生から適用される日本工業大学学業奨励奨学金制度による学業奨励奨励学生が決定した。この奨学金は、年間を通じて学業成績・人物ともに優秀な学生に給付されるものである。

学生時代は相手の身になって真剣に考え、時には相手が嫌がる忠告や行動もあえてし合える本当の友人ができるチャンスなのです。

多感な青春時代を共に真剣に過ごした友情は卒業した後も一生続くでしょう。さて、本学には、成績優秀者に給付する日本工業大学学業奨励奨励学金があり、学生諸君の更なる学業の伸張を支援しております。

その他、育英資金、工友会奨学金などさまざまな奨学金がありますので、学生支援課に問い合わせてください。新入生諸君のこれからの学生時代が楽しく充実したものであることを願っています。

日本工業大学学業奨励奨学金
受給者（新2年生）

平成十七年度入学生から適用される日本工業大学学業奨励奨励学生が決定した。この奨学金は、年間を通じて学業成績・人物ともに優秀な学生に給付されるものである。

学業奨励奨励学生はエクセレント・スチューデント（ES）三名とリマーカーブル・スチューデント（RS）七名に区分され、学科ごとに選考される。ESには七十万円、RSには二十万円の奨学金がそれぞれ給付される。この奨学金は、学費に充当されることになる。

採用者は、次のとおり。
【エクセレント・スチューデント】

【リマーカーブル・スチューデント】

大学院工学研究科

◆博士前期課程

【機械工学専攻】

【情報工学専攻】

【建築学専攻】

◆博士後期課程

【電気工学専攻】

【システム工学専攻】

大学院技術経営研究科（専門職大学院）

【技術経営専攻】

学園創立100周年記念事業の進行状況

図書館・情報複合施設（大学募金対象事業）

「百年記念館」4月着工

明治40年に、本学の前身である東京工科大学が東京・小石川に開設した。そこから連続と続く本学園の歩みは、いよいよ後1年余で学園創立100周年を迎える。本学園では、図3の様に100周年記念事業実行委員会を組織し、様々な記念事業を計画推進している。本紙では、その一部を紹介する。

新しい知の拠点 図書館・情報複合施設 「百年記念館」の建設

「百年記念館」は、学園創立100周年事業として、現在の図書館に替って建設



桜の広場から見る「百年記念館」イメージ図

<百年記念館仕様>

建築面積 2119.47m² 延床面積 4691.33m²
階数 地上9階 地下1階
建物高さ 39.01m
構造 鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造
建物用途 図書館、情報センター、食堂
蔵書冊数 約21万冊
(現在の図書館と比較し、開架部で1.6倍、保存部は1.2倍)
閲覧席数 613席(現在の図書館と比較し、約1.8倍)

各階概要

[1階] 雑誌ライブラリー、インターネットコーナー、映像ライブラリー、ミーティングルーム、シアター、ギャラリー、レクチャースペース、カフェテリア
[2階] 開架書庫、閲覧室、事務室
[3~8階] 開架書庫、閲覧室 [9階] 会議室、貴重書庫

<施工業者>

躯体工事:大成建設(株)
設備関係/電気工事:三英電業(株)、
給排水工事:(株)見和設備、空調工事:大成温調(株)

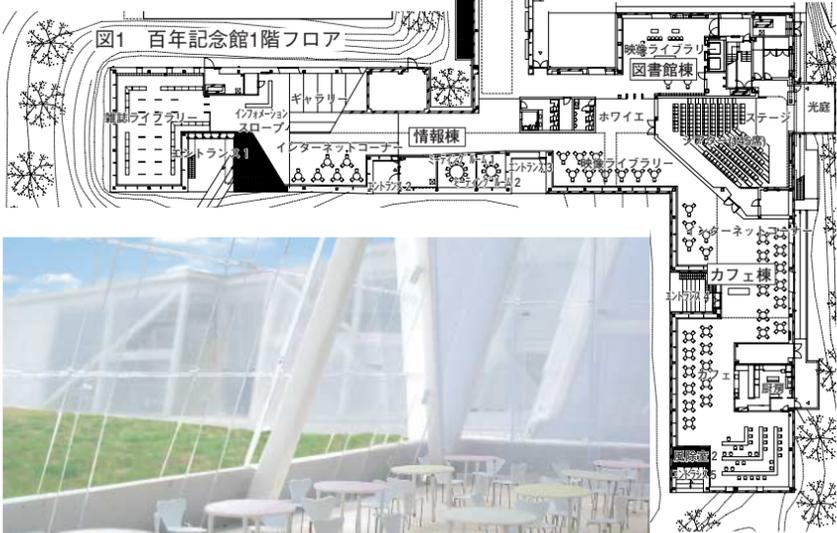


図1 百年記念館1階フロア



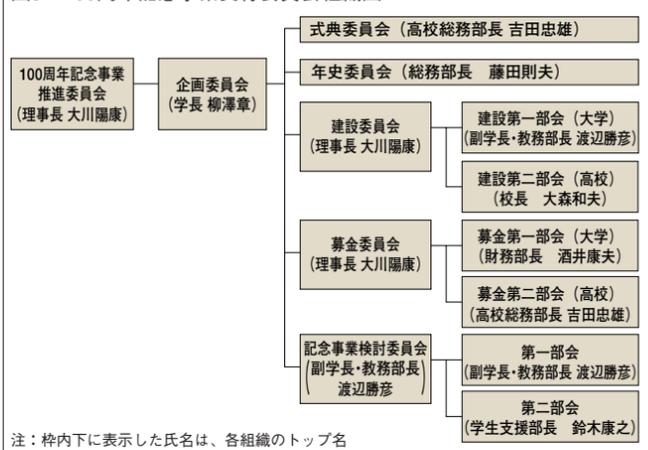
陽光ふりそそぐ1階カフェテリア(イメージ図)

「100周年記念館」建設予定地



図2 「100周年記念館」の学内配置図

図3 100周年記念事業実行委員会組織図



注: 枠内下に表示した氏名は、各組織のトップ名

募金のお願い

本学百周年記念事業として「百年記念館」(図書館・情報複合施設)を建設します。是非とも皆様の絶大なご支援を仰ぎたく、募金にご協力賜りますようお願い申し上げます。

- 募金目標額 9億円
- 募金の期間 平成20年3月31日まで
- 募金をお願いする方

- 個人の場合(特定公益増進法人寄付金)…担当:法人事務局
(在校生父母、卒業生、一般篤志家、教職員等)
1口 1万円(できれば2口以上)
お問い合わせは、法人事務局まで TEL:03-3467-2132
 - 法人の場合(受配者指定寄付金)…担当:大学財務部
(取引先企業、在校生父母・卒業生の自営企業、その他の企業等)
1口 10万円(なるべく多くの口数をお願いいたします)
お問い合わせは、本学財務部経理課まで TEL:0480-33-7504
- IならびにIIともに寄付金の減免税措置が受けられます。

図書館の設計

つた地形で、周辺を桜並木が取り囲んでいる(図2参照)。小川助教は、この地形を活かし、1階部分が鍵型に広がり、中央に9階建ての図書館がそびえる建物を設計した。100周年記念事業として、9階建ての図書館棟がモニユメンタルな意味を持ち、本学の今後の知の拠点となる。

アメニティを重視した 低層部

「百年記念館」の重要な設計要件の1つは、学生のアメニティを重視すること。広く伸びる1階フロアに、こうした機能が盛り込まれている(図1参照)。

ロケーション

「百年記念館」の建設予定地は、キャンパス最南側の「桜の広場」奥で、超高压放電研究センターの西側。なだらかに小高い丘陵状にな



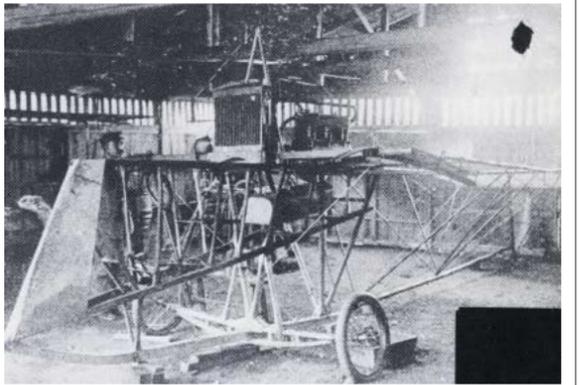
駒場キャンパス多目的ホールイメージ図

多目的ホールの 駒場キャンパス

中学・高校がある駒場キャンパスでは、建設第二部会の主導で多目的の小ホールの建設が進められている。図書館やスチューデント

持たせている。また同じフロアでも場所によって、明るく開放的な場所や、落ち着いた読書に集中できる所など、雰囲気を変えている。こうした試みにより、各利用者が居心地の良い空間を見つけ、長居してほしいと小川助教は語っている。

5階のスカイラウンジや、1階屋上に設けられるルーフトラスからは、四季折々の美しいキャンパスが眺められるだろう。



組立て中の日野式2号機(渋谷教養「日野熊蔵」より、写真提供平木国夫氏)。なお、日野大尉が自ら設計・開発したものと1号機から4号機までの動力付き飛行機があるが、飛行には至らなかった。

この復元プロジェクトは、記念事業検討委員会・第一部会の事業の一環として、システム工学科渡辺顯教授を中心とする実行委員会が当り、すでに復元機の調査と製作作業に入っている。

百年史編纂

百年史編纂は、法人事務局、大学、高校の各委員で構成され、百年史編纂に向け、度々会合を重ねてきた。第1回委員会に出席した大川理事長は「本学園のバ

物で、地下1階、地上3階、延床面積1420㎡(募金対象事業)。

駒場キャンパスでは、校舎中央に位置するアリーナ(体育館)が部活動はもとより、各種説明会や集会に利用されることから、生徒の課外活動の妨げになることがあった。本計画は、その問題を解消しようとするものである。

特に機体、エンジン部分の詳細設計に必要な情報を取り集、また航空史家からの聞きとりや日野熊蔵氏の生誕地・熊本県の現地調査、明治期の飛行機の調査として、交通博物館、明治期の復元機の調査として所沢の航空発祥記念館等を調査した。

復元の実施に当り、明治期の飛行機について熟知し、復元機製作の経験を持つ業者を優先して選定した。このプロジェクトは、本

顧客情報の流出を防ぐ 画期的「情報処理」システム

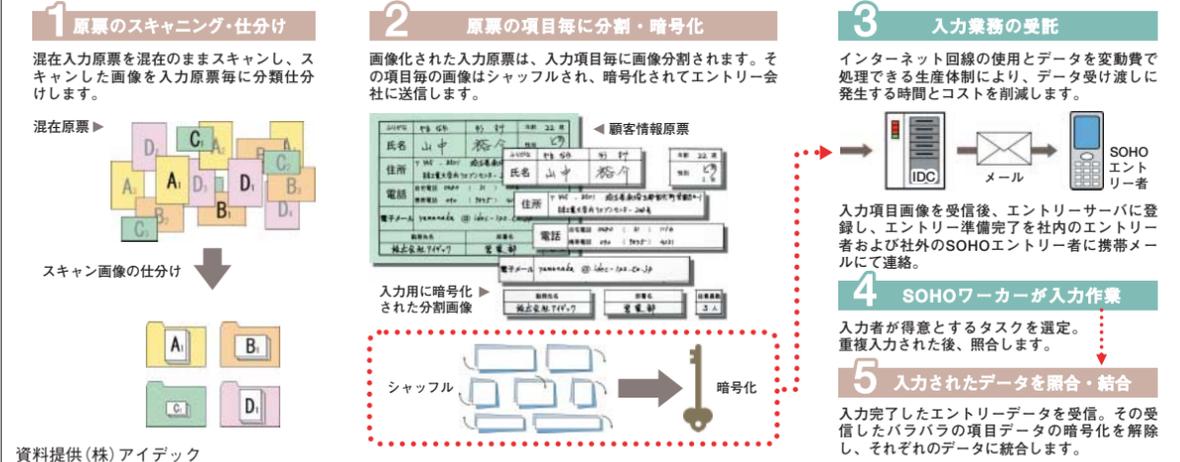
アイデックと大木教授が共同開発

日本工業大学産学共同研究ラボ内に本社を置く株式会社アイデック(社長長村健一郎氏)は、本学情報工学科大木幹雄教授との共同研究による新しい情報処理システムを開発し、本格的な営業活動に入っている。

新しいシステムは、IPS(イメージ・プロセス・システム)という名称で、企業の顧客情報のデータ処理を社外のデータ入力専門会社に委託する場合に発生しがちな情報の社外流出を防止するデータ処理システムである。

従来の顧客情報等のデータ入力方式は、「パンチエンタリー」と呼ばれ、データの記入されている紙の原票を見ながらの入力方式である。この入力方式では、データ入力を受注した元請け会社から、実際にデータ入力を行うエンタリー会社に再外注しており、このため原票をそのまま渡してしまふ等の情報漏洩の危険が常

IDECAが推奨するIPSシステム



につきまとう結果になっている。インターネットの普及に伴い、紙の原票をイメージスキャナで取り込んでイメージ(画像)化し、その画像を実際の入力者に送信して入力させる方式が取られるようになってきたが、この場合でも紙の原票がイメージファイルに置き換わっただけで、情報漏洩の危険は全く考慮されていない状況といえる。

IPSは、この問題点を根本から解決し、情報漏洩の危険を無くす革新的な入力方式と評価される。IPSの主な特長は次の通り。

1. 原票イメージを入力項目別(氏名、住所、電話番号)に画像分割して、該当する入力項目のみの一覧として入力者に開示するので、入力者によるデータの特定が不可能となり、結果として情報漏洩を完全に防止することができる。

2. データ入力はブラウザを使って、インターネット経由で行うため、入力者のパソコンに入力のための特別なソフトウェアをインストールする必要がない。

3. インターネットに接続できる環境のパソコンがあれば、どこからでも、いつでもデータの入力が可能である。これはエンタリー会社側から見ると、場所、設備および人を社内へ常駐確保しておく必要がなく、大きなコスト削減につながる。昨年4月から個人情報保護法が施行され、これにより、これまでのような情報漏洩の危険性の大きい入力方式に変わる新しい入力方式が期待されたが、これに匹敵する形で生まれたのがIPSといえる。

IPSのプロセスは次の通りである。①データの発生する客自身が原票のスキニング、仕分けを行う。

新入生・2年生必読

就職活動の心構え

就職支援課長 吉見 健一

フリーターやニートの増加と新卒社員の高い離職率。今、深刻な社会問題になっている。この原因は、経験や学習の不足から、働くことに対して具体的なイメージがつかめない、将来に向けて目標設定が出来ないなど、自己理解の不足、職業に対する認識不足などによるものである。つまり「学生の就職意識の低さにある」と思われる。

この深刻な社会問題に対処するために、本学では平成14年度からキャリアガイダンスを実施し、学生の就職意識の高揚に努めてきた。「将来何をやりたいか」という目標を設定するために、3年次の10月から就職活動の本番に向けて、自己分析、ビジネスマナー、模擬面接など、実践的な就職支援に入っている。キャリアガイダンスに参加した学生と参加しなかった学生とで、就職活動の取り組み方や姿勢に大きな差が出ている。



就職支援ガイダンスで説明する吉見課長

就職活動5つのポイント

- ①目的・目標を明確にして学生生活を送る。
- ②情報収集は、目・口・耳・足を使った活動。
- ③自己のセールスポイントは何か、また徹底した自己分析をやりアピールできるものを持つ。
- ④日常会話の中で「挨拶」や「マナー」について意識した行動を。
- ⑤新聞より社会・時事問題を、読書や議論より自己表現能力を涵養する。



新入生の皆さんへ入学おめでとうございます。これから皆さんはこの日本工業大学を学び舎として大学生活を送っていきます。皆さんが入学した目的は、専門知識を身につけるため

生からキャリアガイダンスに参加していたせいか、例年になく就職意識が高く就職活動を早期から行い、早くに内定をとった学生が多かった。当然就職率も高くなった。キャリアガイダンスの成果が出てきていると思われる。このようなことから、今後もキャリアガイダンスをベースに、就職支援を実施していきたい。

新入生・2年生諸君においては、「就職意識を高めるための土台作りは、充実した学生生活を送ることから始まる」ことを是非とも知ってもらいたい。そして次に「自分はどうな人間なのか、どんな強みがあるのか、自己分析を行い、「将来自分は何をやりたいか」を今から少しずつ考えて欲しい。

また、学内LANを利用した「就職支援システム」により、1・2年生も本学に求人のある企業を検索できるので、大いに利用して欲しい。

<http://10.10.181.syu.student/>

『まずは友達を作ろう』

学生自治会中央執行委員長 新入生歓迎の辞

情報工学科4年 開澤将希 (富山県立魚津工業高等学校出身)

であったり、友達の輪を広げるためであったり、なんとなく・・・というように、人それぞれだと思います。新しい生活や環境になるので不安なこともあるでしょう。特に一人暮らしを始める人にとっては、身の回りについてもすべて自分でやらなければならないなど、不安もあると思います。そこで、まずは友達を作ってみてはどうでしょうか。

か?積極的にいろいろな人に話しかけてみましょう。友達がたくさんいれば講義でわからないところを教えることができます。皆で協力して1つの目標に向かって頑張り、それが達成できたときの達成感などはとても良い思い出になります。クラブには体育会系と文化系があり、委員会には8つ、サークルには約20の団体があります。その中

から自分にあう団体を探し所属すれば、他学科の友達とも交流ができるので、友達の輪がさらに広がっていくことができます。自分で決めるという事は、自分の行動に責任を持たなくてはなりません。多くの人は親に学費を払ってもらっているから、「親への感謝を忘れないように!」自由何でもないという意識ではないでしょうか。大学生活を楽しく過ごしたい。

引き続いて東京工業大学力と難しさに加え、一般的な対応においては「たとえ業務多忙でわずかな時間しかとれない場合でも、学生に接する時は、しっかりと丁寧に切り換えて、確実に伝達感・安心感を与える《過不足のない対応》が重要である」という点が、強調されていた。

最後の質疑応答では、「学生どうしが友人のように見えても、互いの携帯番号を手な科目の補習を受けたり、外は何も知らない。現代のキヤッチセーブル被害など、学生は非常に希薄な人間関係の多様な相談を持ち込んでいます。さらに同センターでは、各学科から学生の出席状況の報告を受け、欠席の多い学生には電話での追跡・授業参加への呼びかけを行なっている。

本学では、「退学者の削減」を全学的な問題として取り組んでいる。特に、学修支援センターでは、東工大の齋藤先生も感嘆の声を上げるほどの活動が行なわれている。このシンポジウムをきっかけに、そうした活動がよりいっそう広がることを期待したい。

*写真は講演する齋藤講師

第11回教育改革シンポジウム 教職員の立場からの学生との接し方



去る2月16日、本学情報工学科棟5階の会議室において、第11回教育改革シンポジウムが開催された。

これまでの10回のシンポジウムは、主に教員が集まって本学のカリキュラムについて討議を交わす形式であったのに対し、今回は外部から講師を招いての講演が2月時点までのもの。約8500人の学生が同所を訪れ、数学・英語など苦手な科目の補習を受けたり、外は何も知らない。現代のキヤッチセーブル被害など、学生は非常に希薄な人間関係の多様な相談を持ち込んでいます。さらに同センターでは、各学科から学生の出席状況の報告を受け、欠席の多い学生には電話での追跡・授業参加への呼びかけを行なっている。

本学では、「退学者の削減」を全学的な問題として取り組んでいる。特に、学修支援センターでは、東工大の齋藤先生も感嘆の声を上げるほどの活動が行なわれている。このシンポジウムをきっかけに、そうした活動がよりいっそう広がることを期待したい。

*写真は講演する齋藤講師

磯野研究室の学生2名が 映像情報メディア学会で 優秀発表賞受賞



滝口雄介君

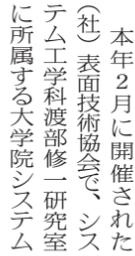
勝又謙君

2月25日に横浜の関東学院大学で開催された映像情報メディア学会主催のメディア工学研究会・学生研究発表会において、本学情報工学科磯野春雄研究室に所属する学生2名が優秀発表賞を受賞した。

優秀発表賞受賞

属する学生2名が優秀発表賞を受賞した。

同研究会では、国公立・私立大学から30件の学生研究発表が行われ、大学院部門、学部部門から合計4件の優秀発表が選ばれたが、そのうちの2件を本学が受賞した。同学会では、同じ大学が4件中、2件も受賞したことはなく、今迄にない快挙である。



野城君

本年2月に開催された(社)表面技術協会、システム工学科磯野春雄研究室に所属する大学院システム

野城君が表面技術協会「進歩賞」受賞

工学専攻博士後期課程3年(当時)の野城君(千葉県立千葉工業高校出身)が、「平成18年度進歩賞」を受賞した。

同賞は35歳以下の若手会員を対象とし、独創性に富み、将来の発展が期待される研究成果をあげた者に与



篠田君

大学院工学研究科機械工

篠田君が日本実験力学会で 奨励賞を受賞

学専攻博士前期課程2年の篠田君(指導教員梅崎栄作教授・都立蔵前工業高校出身)が、「落下衝撃を受ける液体製品用容器の液体挙動と衝撃圧に関する研究」で、日本実験力学会の2006年度奨励賞を受賞した。

近事片々

日工大時代は、進学を断念した工高の仲間たちの分も頑張ろうと、1年の時から高橋恒先生の「猪突猛進ゼミ」や新建築デザイン研究会で宮坂修吉先生に学びつつ、学外では松岡正剛主宰の工作舎「遊」の編集部に通い、クラスの有志とは磯崎新や原広司らの講演会を楽しんでいました。唐十郎の「紅い」も眼から鱗で大変刺激的でした。図書館の方たちには書庫の中まで出入りさせていただき、学会論文報告集を片っ端から拾い読みできたことも大きな収穫でした。お金がないけれど無に面白く学ぶことが大切だと思います。

先輩だより



「スーパー専門高校」に輝いて

菊池 貞介

(千葉県立市川工業高等学校出身) 建築学科第11期生(大学院1期生) 千葉県立市川工業高等学校建築科主任

でしたが、大学院第1期生として皆さんに大きく見守っていただいたことを心から感謝しています。さて、在籍中に始めた大宮工業高校定時制での非常勤講師はその後の大きな変換点となりました。なんとか居眠りをさせま

平成15年1月、各学科の特長を最大限發揮することをねらい、文部科学省の研究開発事業「目指せスペシャリスト」(スーパー専門高校)の企画書に着手。内心「指定されたらどうしよう」と不安もありましたが第一期の指定を受け、以来、風

格段と寿命が改善された。この成果により、今まで潤滑油によって摺動させていた部品を油レスで使用することが可能になると期待されている。例えばオイルレスベアリングなどへの適用が可能で、環境負荷低減という大きなメリットがある。なお、野城君は本年3月に博士号を取得し、博士後期課程を修了。

で報道されたりと目まぐるしく活動しています。この間、平成16年10月、時事通信社の教育表彰で、最高位を受けると同時に文部科学大臣奨励賞に輝き、校長先生や指導課の先生、そして苦勞を共にした同僚たちと手を取り合って喜びました。

工業高校からの専門教育が生徒の素質を大いに伸ばせたことにより専攻分野を定めて大学院に進学したり、専門職に進路を決めていく例がずいぶん増えたように思います。本校も地味ながらコツコツと努力する生徒たちが着実に成果を上げ、職員会議では嬉しい報告が続いていきます。やはり「技術教育」には確かなものがあるのだと思います。

新年度を迎えた学生環境推進委員会活動

誕生から6年目を迎えた学生環境推進委員会では、現在、活動の一環として、在学生から不要となった生活用品を集め、新入生に無償で提供するリサイクルショップを開催している。また、宮代町で取り組んでいる「キッズ・エコサミット宮代2006」に参加、協力し地域との交流活動も積極的に行っている。昨年11月の学生総会で第6代委員長に就任した機械工学科・金子裕介君は、新入生を迎えるにあたり「多くの学生、特に新入生に環境への興味を持ってほしい。ぜひ、委員会の活動に加わってほしい。」と話してくれた。

文部科学省補助金内定

かねてより申請中であった平成17年度情報関係装置・設備等補助金(以下4ジネス社)の設備・装置が内定した。①教育研究用高速情報ネットワーク(情報通信装置補助内定額40,257,000円) ②設置場所 学内全域 納入業者 東日本電信電話(株) ③一般教室映像情報提示システム(情報通信施設補助内定額10,147,000円) ④設置場所 1号館一般教室他 納入業者 三英電業(株) 今回導入されたこれらの設

英会話カナダ特別セミナー



英会話カナダ特別セミナーも20回を超え、着実に成果を上げています。多感な時期に海外で短期滞在することは、かけがえのない実体験として、深く心に刻み込まれるであろう。この絶好の機会を逃すことなく、是非参加されることをお勧めします。

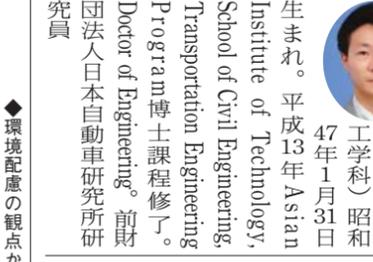
人事異動

- 【昇任(4月1日付)】竹内貞雄助教(先端材料技術研究センター)↓教授に昇任
- ◆椋田實助教(情報工学科)↓助教に昇任
- ◆新任教職者 ◆八木田浩史 助教(システム工学科) 昭和35年4月29日生まれ。平成元年東京大学大学院工学系研究科化学エネルギー工学専攻博士課程修了。工学博士。前独立行政法人産業技術総合研究所ライフサイクルアセスメント研究センターチーム長 ◆石田武志 師(システム工学科) 昭和41年6月22日生まれ。平成18年3月東京

編集後記

▼今冬は本当に寒かった。大雪に見舞われた地域の方々には心よりお見舞い申し上げます。埼玉では、10cmも積もれば交通に支障をきたすというのに、絶えず3〜4mの雪が積もると、ひたすら雪下ろしをして暮らした人々の姿には、仕方ないにせよ、敬服するばかりだ。厳しい冬に耐えられるのは、「もう少しで春がやって来る」という思いがあるからだ。「辛抱すれば」という日本人の国民性は、雪国で育まれたのかもしれないなどと思ったりもする。

台湾・高苑科技大学来訪



2月22日、台湾省・高苑科技大学創設者余玲雅氏(台湾省議会議長)が学術協定提携強化の為来訪し、柳澤学長、渡辺副学長、渡辺康夫教授らと意見交換を行った。同氏は9年ぶりの訪問で、太陽光発電等学内を見学し本学施設・設備の充実ぶりに感心していた。

◆環境配慮の観点から再生紙を使用しております。